

ランドセルを送る

新座市立池田小6年

鈴木 陽はる 11 (新座市)

ぼくにはいくつかの夢があるが、その一つが小学校を卒業したら、アフガニスタンへランドセルを送ることだ。

2歳上の姉は、6年間使ったランドセルをどうするか、母と相談していた。そんな時、ニュースでランドセルをアフガニスタンへ送る活動を知った姉は、躊躇ちゅうちよすることなく手を挙げたのだった。

そんな姉を見習って、ぼくも同じことをしようと思っている。せつかなのでお小遣いをためて、鉛筆、消しゴム、そしてノートをたくさん買って、ランドセルにできるだけ詰め込んで現地へ送るつもりだ。というのも、過去にランドセルをもらった子が、いっぱい勉強して医者になったという話に感銘を受けたからだ。そのエピソードは、遠く離れたアフガニスタンの子が、「勉強をできるといふのは幸せなことだ、決して当たり前前のことではないのです」と自分に教えてくれているような気がした。ぼくの小さな行動が、誰かの夢をかなえることにつながることも、今の自分にとってかけがえのない夢の一つなのだ。